

行政事業レビューシート (文部科学省)

予算事業名	脳科学研究戦略推進プログラム		事業開始年度	平成20年度		作成責任者
担当部局庁	研究振興局		担当課室	ライフサイエンス課		ライフサイエンス課長 石井康彦
会計区分	一般会計		上位政策	ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計画、 通知等	長期的展望に立つ脳科学研究の基本的構想及び推進 方策について(第1次答申)(平成21年6月)、新たなライ フサイエンス研究の構築と展開(平成21年12月ライフ サイエンス委員会)、第3期科学技術基本計画(平成18 年3月閣議決定)		
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に、3行程度 以内)	脳の発達障害・老化の制御や、精神神経疾患の病因解明、予防・治療法の開発を可能にするとともに、失われた身体機能の回復・補完を可能とする技術開発等をもたらし、医療・福祉の向上に最も貢献できる研究分野である脳科学研究について、少子高齢化を迎える我が国の持続的な発展に向けて戦略的に推進し、成果を社会に還元することを目指す。					
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	脳科学研究を実施している大学、研究機関等を対象に、研究機関を公募し、政策課題に対応して文部科学省が設定したミッションを研究機関が実施。 脳内情報を解読・制御することにより、脳機能を理解するとともに脳機能や身体機能の回復・補完を可能とする「ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)の開発」や、脳科学研究の共通の基盤となる先進的なリソースの「独創性の高いモデル動物の開発」及びヒトの社会性障害の解明・診断等や社会性の健全な発達促進に応用することを目標とした「社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発」について、事業を実施。					
実施状況	事業開始前に公募を行い、審査委員会において採択機関を決定。平成21年度は全30機関において、ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)の開発、独創性の高いモデル動物の開発、社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発を推進。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	-	1,700	2,300	2,390	3,790
	執行額	-	1,656	2,299		
	執行率	-	97.4%	100.0%		
	総事業費(執行ベース)	-	1,645	2,299		
自己点検	支出先・ 用途の把握 水準・ 状況	課題解決型の明確な目標設定を持った国の委託研究プロジェクトであるため、支出先の用途の把握については、これまで厳格に実施している。具体的には、全ての委託契約について、支出先・用途を把握し、備品が適切に購入されたか等について、現地での確認等も含む額の確定調査を実施している。				
	見直しの 余地	○脳科学関係の研究については、内局の委託事業に加え、理化学研究所脳科学総合研究センターにおいても大規模な研究が実施されていることから、それぞれの事業の位置付けと役割分担をより明確にするとともに、両者の連携を深めて、より効率的・効果的な研究の実施に努めるべき。 ○平成22年度で所定の研究期間(3年間)が終了する課題については、厳格に事後評価を実施し、今後の研究成果の発展方策について、研究の実施方法も含めてゼロベースで検討を行うべき。				
予算 チームの 監視・ 効率化 の所見	1. 事業評価の観点:この事業は、脳科学研究について文部科学省が設定したミッションを実施する競争的資金である。 2. 所見:厳格な評価を実施して支援を延長する課題を絞り込むとともに、理化学研究所が行う他の業務とのさらなる連携による効率化を図るなど、予算を縮減すべきである。また、他の事業に対する公開プロセスでの指摘等を踏まえ、競争参加条件等のより一層の見直しを図るなど、契約の競争性、公平性、透明性を確保すべきである。さらに、「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」に沿って競争的資金の使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化を進めるなど、研究者にとって使いやすく、かつ、国費が有効に使われるような事業にしていくべきである。					
補 記						

文部科学省
2, 299百万円

諸謝金 0.7百万円
職員旅費 1.8百万円
委員等旅費 0.5百万円
庁費 0.3百万円

を含む

脳の発達障害・老化の制御や、精神神経疾患の病因解明、予防・治療法の開発を可能にするとともに、失われた身体機能の回復・補完を可能とする技術開発等をもたらし、医療・福祉の向上に最も貢献できる研究分野である脳科学研究について、少子高齢化を迎える我が国の持続的な発展に向けて戦略的に推進し、成果を社会に還元することを目指す。

[公募等・委託]

A. 脳科学研究戦略推進プログラム
:2, 296百万円
大学・独立行政法人等(全30機関)

脳科学研究を実施している大学、研究機関等を対象に、研究機関を公募し、政策課題に対応して文部科学省が設定したミッションを研究機関が実施。
脳内情報を解読・制御することにより、脳機能を理解するとともに脳機能や身体機能の回復・補完を可能とする「ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)の開発」、脳科学研究の共通的な基盤となる先進的なリソースの「独創性の高いモデル動物の開発」及びヒトの社会性障害の解明・診断等や社会性の健全な発達促進に応用することを目標とした「社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発」について、事業を実施。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A. 自然科学研究機構					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品購入費	動物実験室陰圧空調装置、群飼育用ゲージ、飼育実験用プレハブ施設、マルチユニット記録解析装置、マルチチャンネル刺激装置、パソコン、複数個体行動解析装置等	286			
間接経費		116			
人件費	研究者及び技術補佐員	62			
雑役務費	移設作業、技術支援業務(人材派遣)、行動解析防音ブース設置に伴う躯体側付帯工事等	20			
その他	シンポジウム開催費(会場借料、運営費)	18			
計		502	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

A: 脳科学研究戦略推進プログラム

	支出先	支出額(百万円)
1	大学共同利用機関法人自然科学研究機構	502
2	国立大学法人東京大学	417
3	株式会社国際電気通信基礎技術研究所	295
4	国立大学法人京都大学	165
5	財団法人実験動物中央研究所	129
6	独立行政法人理化学研究所	71
7	慶應義塾大学	68
8	国立大学法人大阪大学	66
9	国立大学法人東北大学	50
10	株式会社島津製作所	48
⋮	その他	485
合計		2,296